

平成29年度 成績概要書

課題コード（研究区分）： 4104-426500（道受託研究）

1. 研究課題名と成果の要点

- 1) 研究成果名：平成29年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
（研究課題名：平成29年度病害虫発生予察調査）
- 2) キーワード：病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫
- 3) 成果の要約：平成29年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として11病害虫を示す。また、平成30度に特に注意すべき病害虫として4病害虫について防除指導上の注意を喚起する。さらに、平成29年度に新たに発生を認めた病害虫として15病害虫（病害9、害虫6）を示す。

2. 研究機関名

- 1) 担当機関・部・グループ・担当者名：中央農試・病虫部・予察診断G・岩崎暁生、
中央農試・病虫部・クリーン病害虫G、上川農試・研究部・生産環境G、
道南農試・研究部・生産環境G、十勝農試・研究部・生産環境G、
北見農試・研究部・生産環境G、花・野菜技術センター・研究部・生産環境G
- 2) 共同研究機関（協力機関）：北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター、
北海道病害虫防除所、（全道農業改良普及センター）

3. 研究期間：平成29年度（2017年度）

4. 研究概要

1) 研究の背景

病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほかに、前年の発生状況の影響を受けるため、効率的な病害虫防除を実施するためにはそれら踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、迅速な対応が求められる。

2) 研究の目的

全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して防除指導にあたっての注意を喚起する。

5. 研究内容

1) 農作物有害動植物の発生状況

- ・ねらい：農作物有害動植物の発生状況を記録する
- ・試験項目等：18作物・86病害虫の発生状況を調査

2) 突発および新発生病害虫の診断試験および調査

- ・ねらい：道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する
- ・試験項目等：発生調査、再現試験、同定試験

6. 成果概要

- 1) 平成29年に多発～やや多発した病害虫
 - (1) 水稲：紋枯病、ヒメトビウンカ
 - (2) 秋まき小麦：雪腐病
 - (3) 春まき小麦（初冬まき）：赤かび病
 - (4) 小豆：灰色かび病
 - (5) ばれいしょ：軟腐病、黒あし病
 - (6) ブロッコリー：コナガ
 - (7) りんご：黒星病、斑点落葉病、腐らん病

2) 平成 30 年度に特に注意を要する病害虫

(1) てんさいの褐斑病

DMI 剤およびカスガマイシン剤に対する耐性菌が全道に広く分布していることが明らかになったことから、これら薬剤の使用を可能な限り低減し、マンゼブ剤および銅剤を基幹薬剤とする。防除にあたっては散布時期および散布間隔などに留意すると共に、連作の回避や抵抗性品種の利用など耕種的対策も積極的に取り入れる。

(2) あぶらな科野菜のコナガ

ジアミド系薬剤に対する抵抗性個体群が近年継続して発生していることから、同一系統薬剤の連用を避けるなどの対策を行う。また、防除実施に当たって所定の希釈倍数・処理量を遵守し、実施後の効果確認に努める。

(3) りんごの黒星病

近年の多発により、越冬する感染源が多いと推測される。初期の防除、重点期の防除に加え、後期感染や果実感染を防ぐために、散布間隔が開きすぎないようにする。

(4) りんごの腐らん病

近年の多発傾向により、感染源が多いと推測される。り病部は1年を通じて胞子を分散させるため、園地を良く観察し、早期に削り取り、園外に搬出する等の対応を実施する。

3) 新たに発生を認めた病害虫

平成 29 年度に、北海道内において以下の病害虫の発生が新たに確認された。

- (1) ばれいしょの黒あし病 (病原菌の同定)
- (2) てんさいの褐斑病 (薬剤耐性菌の出現)
- (3) えんどうの萎凋病 (新発生)
- (4) にんじんの黒色根腐病 (新発生)
- (5) レタスのオカボノアカアブラムシ (新寄主)
- (6) かぶのケブカチチュウワタムシ (新寄主)
- (7) パセリの葉柄基部褐変腐敗症 (仮称・新発生)
- (8) ねぎの白絹病 (新発生)
- (9) かんしょの灰色かび病 (新発生)
- (10) 花ゆりの株腐病 (新発生)
- (11) きくのクロゲハナアザミウマ (新寄主)
- (12) りんごおよびブルーベリーのウスムラサキイラガ (新寄主)
- (13) ぶどうのキンケクチブトゾウムシ (新寄主)
- (14) なたねのアオチビケシキスイ (新発生)
- (15) トリカブトの立枯病 (新称・国内新発生)

注：病害虫名の後に記したかっこ内表記の凡例は以下のとおりである。

- 国内新発生：これまで国内での発生事例がなかった病害虫
- 新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫
- 新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録
- 病原菌の同定：未同定だった病原菌の種名の確定
- 薬剤耐性菌の出現：道内での発生事例がなかった薬剤耐性菌の出現

7. 成果の活用策

1) 成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。また、平成 30 年度に特に注意を要する病害虫については適切な防除対策を講じる。

2) 残された問題とその対応

8. 研究成果の発表等